

米生徒との交流拡大

授業や部活動体験 7校に増え

飯塚に友好都市の8人到着

飯塚市の友好都市、米国シリコンバレーのサニーベール市から中高生8人を含む総勢12人が18日、飯塚市に到着した。昨年始めた子どもたちの相互訪問事業。24日まで、同世代の家庭でホームステイしながら地元

の学校に通う。前は小中高1校ずつだった受け入れ協力校が、今年は中高計7校に増え、事業への理解が広がってきた。飯塚市は、多くの生徒が国際感覚を学ぶきっかけになればと期待している。

18日は伊岐須小で対面式があり、ホストファミリーの10家族など約90人が一行を歓迎。斎藤守史市長は「飯塚の子どもたちも交流を楽

見学した。

飯塚市教育委員会によると、サニーベールの生徒が



ホストファミリーと対面するサニーベール市の中学生(右)

しみにしている。日本の『絆』という言葉のように、結びつきが深まることを期待する」とあいさつ。8月に米国に行く中学生20人が英語で飯塚市を紹介したほか、和太鼓の生演奏もあり、サニーベールの生徒らは温かい歓迎を喜んだ。

昨年の訪米団に参加した近畿

サニーベール市はIT産業が集積するシリコンバレーの中核都市で、カリフォルニア州でも有数の教育水準を誇る。

飯塚市とは2013年12月に友好関係を結び、翌年6月に中高生11人を含む初の交流団が飯塚を訪れ、伊岐須小と瀬中、嘉穂東高の授業に参加した。同年8月には飯塚の中学生20人が訪米、同世代との交流だけでなく、サニーベール市の近くにあるグーグルの本社などIT産業の先端施設を

大付属福岡高1年の金海晃輝さん(15)は今回、自宅を中学2年生を受け入れる。「自分の家のようになりまっ

クスしてもらったことが大切。多くの思い出と言葉をつくってほしいと語った。

(糸山信)

ちくほつ
教育・学